

4 大豆子実害虫の同時防除適期

農業センター

1) 取り上げた理由

大豆の子実害虫は主要なものだけでも、ダイズサヤタマバエ、マメシクイガ、カメムシ類がある。防除コストの軽減を図るため、1回だけ防除する場合の散布適期をそれぞれの種類で調査するとともに、各種害虫を同時防除するにはどの時期が効率的か検討した。その結果、成果が得られたので参考資料とする。

2) 参考資料

- (1) ダイズサヤタマバエによる不稔粒の発生は、8月下旬（着莢期）の防除効果が最も高く、時期が遅くなるほど効果は低下する。
- (2) マメシクイガの食害粒の発生は、8月下旬と9月上旬の防除効果が高く、それ以後の防除は効果が低い。
- (3) カメムシ類による稔実被害粒の発生は、いずれの時期の防除でも無処理の半分程度かそれ以下に抑えるが、特に防除効果が高い時期は認められない。
- (4) これらの被害粒が同率で発生すると仮定した場合、8月下旬の防除効果が最も高い。9月上旬の防除効果はやや低下するが大きくは変わらない。9月中旬以降の防除効果は明らかに低下する。したがって、1回の薬剤散布で子実害虫の被害を効率的に抑制するには、8月下旬（着莢期）の防除か、遅くとも9月上旬までに防除を実施するのがよい。

3) 対象地域等

県下一円（普通播き栽培・晩生種）

4) 特に留意すべき事項

多発が予想される場合には、2回以上の防除を実施する。

5) 背景となった主要な試験研究

- (1) 研究機関及び担当部科名 農業センター作物保護部，病害虫科・病害虫発生予察科
- (2) 研究課題名及び研究期間 大豆害虫の効率的防除方法の確立 平成6～9年

(3) 参考データ

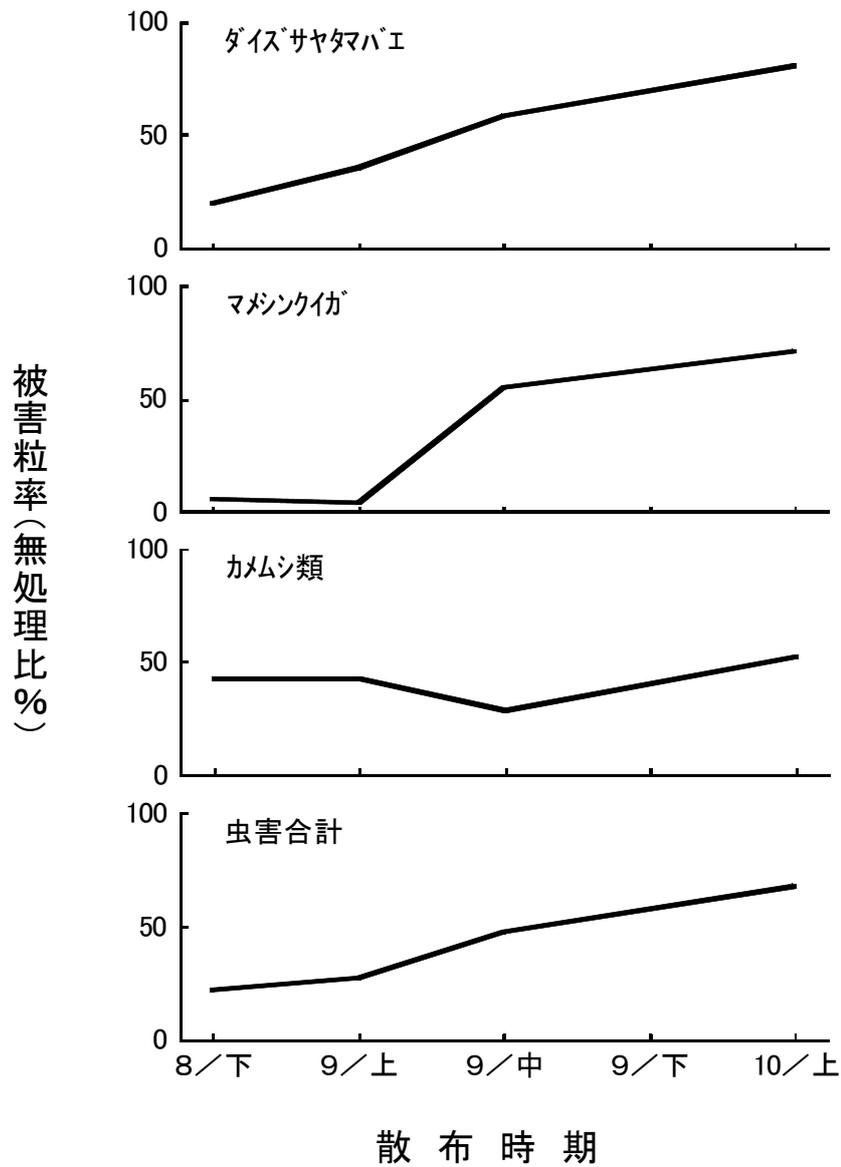


図-1 薬剤散布時期別の主要子実害虫の被害粒率（平成6～9年平均値の無処理比）
ダイズサヤマバエは不稔被害，カメシ類は稔実被害。虫害合計は各被害が同率で発生すると仮定して算出。いずれもパーマチオン水和剤1000倍を180 $\frac{\text{kg}}{\text{ha}}$ ／10a散布。

(4) 発表論文等

なし